『智山年表［近現代篇］』からの語彙と用例採取について

―「講義・講伝・伝授」―

田村宗英

はじめに

智山伝法院では、昨年度より「教学を再考する」というテーマを設けて研究会や講習会を行っている。このテーマの意図するところは、現代密教第二十六号掲載の巻頭言や論文等で述べられている通りであるが、簡単にその経緯を確認しておきたい。

僧侶の学びは事相と教相の双修が基本であるが、両者が乖離しているのではないかという指摘がこれまでもなされてきた。それを受けて、では真言密教の伝統としての学び、「教学」とは何かということを改めて考えてみた場合、一般的に使っている「教学」という言葉自体も甚だ不明確であるということが大きな問題点として浮上してきた。さらに、「教学」との関係性が深い「講義・講伝・伝授」という言葉についても範疇や枠組みが明示されていないことがわかった。これら一連の考察が「教学を再考する」というテーマを掲げることになった経緯

である。

そこで本研究では、言葉の枠組みや範疇が明確ではない「講義・講伝・伝授」について過去の用例に遡り、どのように使われてきたのかを考察するものである。これは、平成二十五・六年度に高野山大学教授の佐藤隆彦師、平成二十七年度には真言宗豊山派事相研究所所長の石井祐聖師をお招きして講習会や研究会を開催[1]したことを背景としている。両師にはそれぞれ「教学」と関連する「講義・講伝・伝授」について、その言葉の範疇や使い分け等についてご講義頂いたが、その中でも本研究では石井師にご提示いただいた分類資料、これは真言宗豊山派宗務所発行『改訂増補　豊山年表』から特定の項目を取り出し視認性の高い一覧表にしたものであるが、この資料と作成方法を参考にして取り組んだ。

研究範囲と方法、また採取した語彙等については次の通りである。

《研究範囲と方法》

●明治期以降

●『智山年表［近現代篇］』から語彙と用例を採取し、一覧にする。

その上で、特定の傾向があるのか否かについて考察を加える。

《採取した語彙と用例》

●「講義」「講伝」「伝授」を中心に採取。

それに加え、「講義」「講伝」と関連すると考えられる「開講」「開演」についても採取の範囲とした。

『智山年表［近世篇］』についても合わせて一覧にしようと取り組んでいるが、現時点においてまだ途中経過にあること、それに加え、近世と近現代を同じプロセスの上で見ることが可能であるのか等、検討事項が多数あることから、今回は近現代だけに絞って提示する。

考察～一覧化から見えること～

使われている回数が最も多いのは「伝授」であり、次いで「講義」、「講伝」となる。また、補足的に採取した「開講」、「開演」についてはほとんどが「講義」に組み込まれることがわかった。以下、平成二十五～二十七年度に開催された講習会と研究会での内容を参考にしながら、使用回数の多い順に考察していきたい。

一、「伝授」

使用回数　七十一回

一覧表から内容をみていくと、事相に関するもの全般を「伝授」としていることがわかる。これに関しては、高野山大学教授の佐藤隆彦師、真言宗豊山派事相研究所所長の石井祐聖師が講習会ならびに研究会で述べられた内容や資料と照らし合わせてみても同じことがいえる。

また、何が伝授されているのかについては、当然ながら報恩院流が一番多く約五〇件と、多くの割合を占めている。一方、昭和初期までを見ると数は少ないながらも、伝法院流や中性院流、西院流、三宝院流地蔵院方など

の伝授が幅広く行われていたことが窺える。ここで、伝授の会場について確認すると、報恩院流以外の伝授はほとんどが地方寺院での開催であるが、一度だけ智積院において、明治四十二年二月二十一日に瑜伽化主による伝法院流の伝授が開かれている。悉曇や声明の伝授も目に着くところであるが、これについては「講伝」のところでみていきたい。

二、「講義」

使用回数　二十九回（「講演」の項目から内容的に「講義」を示しているものを含めると四十一回）

主に智山専門学林など教育機関での授業を「講義」として取り上げていることが一覧表から見てとれる。また、内容については、『般若心経秘鍵』、『即身成仏義』が最も多く、その他『大日経疏』、『秘蔵宝鑰』、そして十巻章全般の講義等が挙げられている。

ここで、「講義」として分類される内容について確認しておくと、高野の佐藤師、豊山の石井師ともに、「講義は、教相全般。二十五巻章について使用される」との見解であった。

その点を踏まえて、再度一覧表から内容を確認していくと二十五巻章に関するものが多く、智山派においても同様の定義付けができるものと考えられる。（智山派におけるそれぞれの語彙の定義付けについては「さいごに」で言及する）

また、石井師は豊山派の年表には明治期以降「講義」が挙げられる頻度が極端に少なくなると指摘しており、「教育機関が充実したことで明治以降の講義が年表には載らなくなったのではないか」という見解を示された。

つまり、特別な講義についてのみ取り上げているため年表には載らなくなったという意味である。しかしながら、智山派においても豊山派と同じ意味内容で「講義」を扱っているものと捉えられるが、豊山派とは違って教育機関での授業についてもきちんと取り上げている傾向にあるため、年表から採取できる数も講伝より多くなっている。

三、「講伝」

使用回数　十一回（内容的に伝授と考えられるものが一回含まれる。「開講」「開演」の中から該当するものを含めると＋二回＝十三回）

使用回数がかなり少ないが、内容について見ていくならば、『理趣経』が一番多く（三回）、次いで『大日経奥疏』（二回）が挙げられる。先と同じく「講伝」として分類される内容を確認するならば、高野の佐藤師と豊山の石井師ともに『大日経奥疏』、『金剛頂経』、『理趣経』、秘密儀軌、『秘蔵記』、『御遺告』、曼荼羅を挙げており、智山派においても同じ使い方をしていることがわかる。

また、佐藤師・石井師ともに「講伝」という言葉は明治期以降に定着したのではないかという指摘をされている。これについて、智山伝法院嘱託研究員の貝谷隆慧師は現代密教第二十六号「講伝の意義とその濫觴[2]」において、高野山の学匠道応（一八〇六―一八七五）による『秘蔵記鈔』の奥書に「明治三年庚午十一月当記講伝」とあるのを「講伝」の初例として挙げ、「講伝という言葉が、今日の意味で、真言宗内において広く知られ、使われるようになったのは、おそらく明治の終わりから大正にかけてのことである」と述べている。今回作成した一

覧表から「講伝」の一番古い例を取り出すと明治十五年である。このことは、貝谷師の指摘を裏付けているものと考えて良いだろう。

それから、悉曇や声明について言及しておきたい。他宗については佐藤師や石井師の講義や資料より知り得るのみであるが、豊山派の場合、悉曇は「伝授」にのみ分類されているようである。しかしながら、智山派においては「伝授」だけではなく「講伝」にも分類されている。さらに声明[3]についても、智山派では悉曇と同じく「伝授」および「講伝」にも分類されていることから、智山特有の傾向として考えられるかもしれない。

さいごに

これまで主に平成二十五～二十七年度に開催された講習会・研究会での内容とそれぞれの語彙の使用頻度から分かり得る事柄について述べてきた。これは佐藤師と石井師を通して高野山真言宗や豊山派の見解と『智山年表』における語彙の使用頻度、つまり智山派との相関関係をみてきたわけであるが、最後に智山派内部で「講義・講伝・伝授」の定義についてどのような議論がなされているのかを言及しておきたい。

智山伝法院教授の小林靖典師は現代密教第二十六号「『大日経』の講伝について―我々は何を伝えていくべきか―[4]」の冒頭部分で、講義・講伝・伝授の定義について触れている。ここで小林師は平成二十五年度の開催された講習会での佐藤師の見解、そして智山講伝所所員の石川照貴師による講習会において同様の定義付けがされているとして、その説を補強すべく長谷寶秀師や小田慈舟師、山崎泰廣師の著作から該当箇所を引用し、講義は教相、伝授は事相、講伝は事教の二相について説かれるものという見解を示している。また、貝谷師も小林師と同様の見解を示しており、上述の論文冒頭で事相と教相、そして講義・講伝・伝授の定義付け及び内容の種類分け

を提示し、その後、これらの語彙の典拠を『大日経疏』や高岡隆心師述・細川孝源師記『両部曼荼羅大意』等に求めて記している。[5]

しかしながら、ここで小林師、貝谷師ともに智山派の学匠からは典拠をほとんど求めていない点が気になる。この意味するところは智山派の学匠が残している著作等では明確に述べられているものがないということであろうが、今回作成した一覧表からそれぞれの語彙の使用傾向によって、また平成二十五～二十七年度の講習会及び研究会で示された内容等から、智山派においても他宗と同様の定義付けをもって使用されていたことがわかる。つまり、「講義・講伝・伝授」というそれぞれの語彙は、真言宗全体においてほぼ同じ定義付けで使用されていたと判断される。

［凡例］

・「伝授」の項目については、他山において受者として参加したというような記事については省いた。
・著作名に「講義・講伝・伝授」という用語が入っている記事については省いた。
・「開講」については意味内容から「講伝」もしくは「講義」に割り振りをした。
・『智山年表［近現代篇］』の表記をそのまま引用しているが、書籍名に関しては『』で示すようにこちらで統一した。また、事項の文末にある［中外二〇〇〇］等という表記は『智山年表［近現代篇］』の編纂過程で典拠にした資料を示した略号である。詳しくは『智山年表［近現代篇］』の「出典一覧」を参照のこと。

《伝授》

番号	西暦	和暦	月日	事項
1	一八七六	明治九	十月二日	智積院において、丹藤前化主により六十日間にわたる報恩院流伝授が開筵する。［明教三四七］
2	一八七七	明治十	六月	智積院において、佐々木化主により、悉曇切続伝授が開筵される。［明教四八八］
3	一八七九	明治十二	九月三日	智積院において、松平化主による報恩院流一流伝授が開筵する。［明教八六〇・八六六］
4	一八八〇	明治十三	一月一日	智山専門学林東校において松平化主による悉曇切次、普通諸大事の伝授が開筵する。［明教九二二］
5	一八八〇	明治十三	二月二十一日	智山専門学林東校において松平化主により、中性院流の伝授が勤修される。［明教九三三・九四〇・九四四］
6	一八八〇	明治十三	四月二十五日	金剛宥性が醍醐寺において幸心一流伝授を開筵、六月十日に初重を印可する。［明教九九七］
7	一八八二	明治十五	一月十七日	智積院において化主代理で元醍醐寺座主金剛宥性を大阿闍梨として、報恩院方一流伝授が開筵する。［明教一二六七］
8	一八八三	明治十六	六月二十五日	浅草吉祥院において、金剛宥性大阿闍梨による幸心方一流伝授が開筵する（～二十九日）。［明教一四八〇・一五四四］
9	一八八五	明治十八	二月十六日	京都北野大報恩寺において、滝承天が発起人となり、志州法雲阿闍梨を招き、曼荼羅の伝授が開筵する。［明教二三三七］
10	一八八八	明治二十一	六月一日	智積院において、化主代理の金剛宥性のもと、伝法院流一流伝授が開筵する。［明教一六八二・一六八九・一七一四］
11	一八八八	明治二十一	七月六日	埼玉県菖蒲吉祥院において文屋晋数を大阿闍梨に招請し、一流伝授が開筵する。［明教二三九七］

12	一八八九	明治二十二	二月二十日	東京大井来福寺において、文屋晋数大阿闍梨により一流伝授が開筵する。［明教二五三〇］
13	一八八九	明治二十二	七月	智積院において川崎大師平間寺前住職佐伯隆基が大阿闍梨となり報恩院流一流伝授が開筵する（～八月）。［明教二五八七］
14	一八九〇	明治二十三	八月	川崎大師平間寺において同寺前住職佐伯隆基大阿闍梨により幸心一流伝授が開筵する（～二十五日）。［明教二七六三］
15	一八九一	明治二十四	二月二十一日	滋賀県阪田郡悉地院において伴佐大住大阿闍梨により幸心方一流伝授が開筵する（～五月二十九日）。［密厳三一・三二・四二］
16	一八九一	明治二十四	五月二十日	埼玉蕨三学院において金剛化主大阿闍梨により広沢方西院一流伝授が開筵する（～二十一日）。［密厳三七・三九・四二、明教二八七六・二八九〇・二九〇二］
17	一八九一	明治二十四	八月二十六日	新潟佐渡慶宮寺において報恩院一流伝授が開筵する（～十月七日）。［密厳五一］
18	一八九一	明治二十四	九月十二日	埼玉県遍照院において文屋晋数大阿闍梨により幸心方一流伝授が開筵する。［密厳四七・四九］
19	一八九一	明治二十四	九月二十日	高幡不動金剛寺において金剛宥性が大阿闍梨となり幸心流伝授が開筵する（～十一月八日）。［密厳四一・五三、明教二八九八・二九四〇］
20	一八九二	明治二十五	十一月二十七日	真言宗新義派有志が発起人となり、埼玉県中山金剛寺において文屋晋数を大阿闍梨に迎え、幸心方一流伝授が開筵する。［密厳七六、明教三一五一］
21	一八九三	明治二十六	十一月三日	新潟県三島郡薬師寺において三宝院流地蔵院方の一流伝授が開筵する。［密厳九九］
22	一八九四	明治二十七	一月二十三日	新義派大学林において同大学林講師船岡芳勝大阿闍梨により幸心方一流伝授が開筵する。［密厳一〇五］
23	一八九七	明治三十	四月八日	東京千住慈眼寺において幸心方一流伝授が開筵する。［密厳一七九］

24	一八九七	明治三十	五月一日	智積院において三神化主を大阿闍梨として三宝院幸心方一流伝授が開筵する。［密厳一八一、伝灯一三九、明教三九二〇］
25	一八九七	明治三十	六月十六日	新義派大学林において三神化主大阿闍梨により幸心方一流伝授が開筵する。［密厳一八三・一八六］
26	一八九九	明治三十二	四月十五日	真言宗新義派大学林において主管瑜伽教如により声明法式が伝授される。［明教四二七七］
27	一九〇二	明治三十五	十月一日	東京愛宕真福寺において、瑜伽化主大阿闍梨により、幸心流一流伝授が開筵する。［智嶺一八・二〇］
28	一九〇六	明治三十九	四月	智積院において、瑜伽化主阿闍梨のもと、一流伝授が開筵する。［中外一八七四］
29	一九〇六	明治三十九	七月二十一日	瑜伽化主が、千葉県君津神野寺に御親教し、伝法灌頂、一流伝授声明悉曇等の伝授、受明灌頂、結縁灌頂を勤修する（～九月九日）。［智嶺六七、加持六－一〇］
30	一九〇七	明治四十	三月三十日	瑜伽化主が新潟へ御親教し、不動院における灌頂修行、各地での菩諏会に臨席、如法寺での一流伝授等を勤修する（～六月七日）。［智嶺七四・七五・七六、加持七－三］
31	一九〇八	明治四十一	十一月七日	瑜伽化主は浄土宗有志の懇請により大雲院において悉曇を伝授する（～八日）。［智嶺九四］
32	一九〇九	明治四十二	二月二十一日	智積院において、瑜伽化主による、伝法院流の伝授が開筵する。［智嶺九四、中外二六三二・三八四五］
33	一九一二	明治四十五	六月二日	愛媛県太山寺において、宮崎智全を大阿闍梨に幸心方一流伝授が開筵する。［智嶺一三七］
34	一九一二	大正元	十月一日	東京根岸西蔵院において、瑜伽前化主大阿闍梨による大伝法院流一流伝授を開筵する（三十日間）。［智嶺一三八、中外三八四五］
35	一九一三	大正二	二月十五日	埼玉県入間大智寺において、瑜伽前化主による大伝法院流伝授が開筵する。［智嶺一四一、六大四八四、中外三九五九］

36	一九二三	大正二	十月六日	針城県鹿島般若寺において、瑜伽前化主が伝法院流悉曇声明の伝授を開筵する（～二十八日）。［智嶺一五一・一五四］
37	一九一五	大正四	十月四日	東京亀戸普門院において朝倉玉雅大阿闍梨のもと幸心流伝授が開筵する（～十一月四日）。［智嶺一七五・一七七］
38	一九一六	大正五	十月一日	高尾山薬王院において瑜伽前化主大阿闍梨のもと、一流伝授が開筵する。［智嶺一八八］
39	一九一八	大正七	十月十五日	埼玉県蕨三学院において瑜伽元化主による幸心流一流伝授が開筵する（～二十七日）。［智嶺二一七］
40	一九一八	大正七	十一月七日	大須観音宝生院において瑜伽元化主による悉曇声明伝授が開筵する（～二十四日）。［智嶺二一三、中外五七六二］
41	一九一九	大正八	十月一日	埼玉県蕨三学院において瑜伽元化主による第二回目の幸心流一流伝授が開筵する（～十四日）。［智嶺二二五］
42	一九一九	大正八	十月十五日	埼玉県鳩ヶ谷地蔵院において瑜伽元化主戒師により授菩薩戒会が勤修される。十九、二十日には、臨終大事の伝授が開筵する。［智嶺二二五］
43	一九二〇	大正九	五月一日	針城県鹿島般若寺において、宮崎智全大阿闍梨により西大寺流曼荼羅伝授が開筵する。［智嶺二三〇］
44	一九二二	大正十一	十月二日	東京根岸西蔵院において声明・十結が伝授修行される。瑜伽前化主大阿闍梨を勤める。［智嶺二五六］
45	一九二三	大正十二	四月十六日	東京亀井戸普門院において瑜伽前化主の喜寿記念伝授（幸心方一流・声明）が開筵する（～三十日）。［智嶺二六四］
46	一九二五	大正十四	四月十日	宗務所において瑜伽元化主を大阿闍梨として幸心方一流伝授を開筵する（～二十三日）。［智嶺二八八・二九〇］

47	一九二八	昭和三	五月二十一日	千葉県八日市場福善寺において林田光禅を講師として幸心流四度伝授を開筵する（～三十日）。［智報一一・一二、中外八六〇七］
48	一九三六	昭和十一	十月	宗務所において川崎弁竜が大阿闍梨となり三宝院流幸心方一流伝授が開筵される。［六大一六八八］
49	一九四八	昭和二十三	四月十七日	出流山満願寺において、高井化主を阿闍梨として一流伝授を開筵する。［宗報四、六大二二一二］
50	一九五六	昭和三十一	十月二日	別院真福寺において宗務庁主催、東京五教区・神奈川教区協賛で倉持化主を大阿闍梨に三宝院流幸心方の一流伝授が開筵する（～六日）。［宗報八六・八七、六大二四八七・二四九一］
51	一九五七	昭和三十二	五月十日	新潟第一教区一番照明寺において、新潟全教区主催による倉持化主の御親教ならびに一流伝授が開筵する（～十二日）。［宗報九三・九五、六大二五六一］
52	一九六六	昭和四十一	三月十二日	別院真福寺において、秋山化主による不動法および諸切紙の一流伝授が開筵する。［宗報一八八、六大二八一六］
53	一九六七	昭和四十二	七月二十七日	埼玉第三教区十番遍照院において、秋山化主による不動法を中心とする一流伝授が開筵する。［宗報二〇六］
54	一九七五	昭和五十	七月二十三日	新潟第三教区三十一番成就院において、那須前化主による報恩院流一流伝授が開筵する（～二十九日）。［宗報二九九］
55	一九七六	昭和五十一	六月十七日	新潟第三教区三十一番成就院において、那須元化主により第二回目の報恩院流一流伝授が開筵する（～二十二日）。［宗報三〇七］
56	一九七七	昭和五十二	六月二十一日	新潟第三教区三十一番成就院において、那須元化主により第三回目の報恩院流一流伝授が開筵する（～二十五日）。［宗報三一一］
57	一九八一	昭和五十六	十一月二十五日	別院真福寺において、那須元化主による第一回報恩院流一流伝授が開筵する。［宗報三七二・三七三］

58	一九八二	昭和五十七	五月十三日	別院真福寺において、那須元化主阿闍梨による第二回一流伝授が開筵する（～十五日）。［宗報三八〇・三八一］
59	一九八二	昭和五十七	十月六日	別院真福寺において、那須元化主阿闍梨による第三回一流伝授が開筵する（～八日）。［宗報三八六］
60	一九八五	昭和六十	五月三十一日	栃木中央教区生福寺において、東海教区福生寺松平実禅大阿闍梨のもと聖天供作法の伝授が開筵する。［宗報四一九］
61	一九八五	昭和六十	十月六日	智積院において、御遠忌記念として出版された『薄双紙』の伝授が開筵する（～九日）。伝授は智山講伝所顧問藤井竜心と三神栄昇。［宗報四二〇・四二三、六大三四四七、中外二三四一二・二三四二四］
62	一九九一	平成三	一月二十一日	藤井化主大阿闍梨のもと、仁王会伝授が開筵される（～二十四日）。［宗報四八一・四八六］
63	一九九八	平成十	六月十八日	宗務庁大講堂において、智山青年連合会主催「諸法会要集」作法部伝授会が開催される。［宗報五七五］
64	一九九八	平成十	十月二十六日	近藤化主（お手替り佐藤良盛）大阿闍梨のもと、報恩院流一流伝授第一会が開筵する（～二十九日）。［宗報五七三・五七九・六二八］
65	一九九九	平成十一	二月十六日	近藤化主お手替りとして佐藤良盛大阿闍梨のもと、報恩院流一流伝授第二会が開筵される（～十八日）。［宗報五七九・五八二・六二八］
66	一九九九	平成十一	九月二十九日	近藤化主お手替りとして大森竜澄大阿闍梨のもと、報恩院流一流伝授第三会が開筵する（～十月二日）。［宗報五八七・五九〇・六二八］
67	二〇〇〇	平成十二	四月二十日	智積院において、宮坂化主による阿字観伝授会が挙行される。［宗報五九四、六大三九〇一］
68	二〇〇〇	平成十二	十一月二十九日	智積院において、宮坂化主を阿闍梨として、報恩院流一流伝授第四会が開筵する［宗報六〇二・六〇三・六二八、文化一〇八四三］

※第一～三会についての記事なし

69	二〇〇一	平成十三	十一月二十六日	智積院において、宮坂化主大阿闍梨のもと報恩院流一流伝授第五会が開筵する（〜三十日）。［宗報六一三・六一六・六二八、文化一〇九四一］
70	二〇〇二	平成十四	二月五日	智積院会館において、宮坂宥勝大阿闍梨のもと報恩院流一流伝授第六会が開筵する。［宗報六一六・六一九・六二八、文化一〇九五六］
71	二〇〇三	平成十四	十一月二十六日	智積院において、宮坂化主大阿闍梨のもと、報恩院流一流伝授第七会が開筵する（〜二十九日）。併せて受者に許可印信および伝授目録が授与される。［宗報六二六・六二八］

《講義》

番号	西暦	和暦	月日	事項
1	一八七五	明治八	十月十七日	智積院において、金剛宥性が『般若心経秘鍵』、『即身成仏義』、『大乗起信論』等を講義する。［明教一八七］
2	一八七五	明治八	十一月二十二日	真言宗大教院は、佐々木化主が、東京愛宕真福寺において「十巻章」を講義する。［明教二〇〇］
3	一八七六	明治九	十二月	金剛宥性、小野随心院において『原人論』を講義する。［智誌］
4	一八七七	明治十	二月十九日	智積院において、佐々木化主が、『真言宗即身成仏義章』と『成唯識論述記』を講義する。［明教四二七］
5	一八七七	明治十	二月	京都山城蟹満寺伊佐弁盈が、大和法隆寺において『大日経疏』を講義する。［明教四二八］
6	一八七七	明治十	四月	浄土宗知恩院において丹藤前化主が、『唯識論』を講義する。［明教四四六］
7	一八七七	明治十	五月八日	智積院において佐々木化主が、『声字義』と『吽字義』を講義する。［明教四六〇］
8	一八七七	明治十	八月十二日	智積院山内の智山専門学林西校の開校式が挙行され、佐々木化主導師のもと、大般若経転読会が勤修される。翌十三日、佐々木化主が『般若心経秘鍵』の講義を行う。［明教五一一］
9	一八七七	明治十	十月十二日	東京愛宕真福寺の智山専門学林東校の開校式にあたり、佐々木化主・中谷範寿の『般若心経秘鍵』『錫杖経』の講義および論義法要が勤修される。［明教五三二・五三七］
10	一八七八	明治十一	四月十日	浄土宗知恩院において丹藤元化主が、『三類境』を講義する。［明教六二二］
11	一八七八	明治十一	七月一日	吉堀慈恭が『即身成仏義』を講義する。［明教六六〇］

12	一八七八	明治十一	八月二十一日	智山専門学林西校において丹藤前化主が、『即身成仏義』『百法問答鈔』の講義を行う。本願寺・知恩院等の他門を含め、数十人の参聴あり。［明教六八七］
13	一八七八	明治十一	（この年）	増上寺において佐々木化主が『義林章』を講義する。［智誌］
14	一八七九	明治十二	三月五日	船岡芳勝が『秘蔵宝鑰』を講義する。［明教七七五］
15	一八七九	明治十二	五月二十六日	智山専門学林東校において船岡芳勝が『大日経住心品疏』を講義する。［明教八一七］
16	一八七九	明治十二	十月十日	智山専門学林東校における『住心品』講義が満講し、大試験が執行される。［明教八七八］
17	一八八〇	明治十三	十二月	金剛宥性が、大覚寺において「十巻章」を二度、醍醐寺において『大乗起信論義記』を講義する。［智誌］
18	一八八三	明治十六	六月二十日	智山大学林において『唯識論述記』の講義が開講される。［明教一五二八］
19	一八八四	明治十七	六月	智山大学林において船岡芳勝が『倶舎論』、青木栄豊が「五位七十五法」、中山講義が『三教指帰』、加藤講義が『西谷名目』を講義する。［明教一六九〇］
20	一八八四	明治十七	十月一日	智山大学林において、船岡芳勝が『倶舎論』を講筵する。次いで『因明論』が講義される。［明教一七四七］
21	一八八五	明治十八	二月二日	智山大学林において、船岡芳勝による『成唯識論述記』の講義が開講される。［明教一七八九］
22	一八八六	明治十九	二月	智山大学林において金剛宥性による『華厳五教章』の講義が開講する。［明教一九五九］
23	一九三四	昭和九	四月三十日	智山専門学校教授高神覚昇が東京中央放送局において、聖典講義「『般若心経』講義」を行う（～五月十二日）。［智報八三］
24	一九六九	昭和四十四	十一月五日	那須化主が浄土宗知恩院の大五重相伝において東密の事相を講義する。［宗報一三三］
25	一九七三	昭和四十八	十月一日	別院真福寺において、那須政隆による第一回『金剛頂経』講義が開催される（～五日）。第二回は十五日～十九日。［宗報二七六・二八〇、六大三〇六〇］

26	一九七四	昭和四十九	十月七日	別院真福寺において智山教化研究所主催で、芙蓉良順講師による公開特別研究会「十巻章」講義が開催される（～九日）。［宗報二九一、六六三〇九七］
27	一九七四	昭和四十九	十月二十八日	別院真福寺において、智山教化研究所主催の那須政隆講師による、『釈摩訶衍論』講義が開催される（～十一月二日）。［宗報二九一、六六三〇九九］
28	一九八一	昭和五十六	五月十一日	那須元化主が北海道教区において「真言教学と人生」と題し講義を行う（～十三日）。［宗報三六六・三六七］
29	一九八八	昭和六十三	八月二十八日	藤井化主による第一回特別記念講義が智積院金堂地下で開催される（以後、毎月二十一日開催）。［宗報四五七］

《講伝》

番号	西暦	和暦	月日	事項
1	一八八二	明治十五	六月二十三日	智積院において、醍醐寺前座主金剛宥性が『大日経奥疏講伝』、瑜伽教如が『起信論』の講筵を行う。［明教一三三九・一三五〇］
2	一八八二	明治十五	八月	智山大学林において、金剛宥性が『大日経奥疏講伝』を開筵する。［明教一三八三］
3	一九一三	大正二	五月	千葉県君津成願寺において、瑜伽前化主による悉曇・声明の講伝が開筵する（三十日間）。［中外四〇七七］
4	一九一七	大正六	六月一日	東京根岸西蔵院において瑜伽前化主阿闍梨のもと、『新義声明大典』出版記念新義声明講伝（～十日）、十一日からは上野東京音楽学校において声明講伝が開筵する（～二十日）。二十一日、西蔵院において声明印可が開壇される。［智嶺一九四・一九六、六大七一三］
5	一九一七	大正六	九月二十八日	高尾山薬王院において瑜伽前化主大阿闍梨として教相（六大法身）、事相（抜次第、薄草紙初二重）、声明法式（悉曇摩多体文）の講伝が開筵する（～十月二十二日）。［智嶺一九九・二〇〇・二〇一］
6	一九二二	大正十一	五月一日	長野県岡谷照光寺において理趣経講伝が開筵される。丸山貫長が講師・阿闍梨を勤める。［智嶺二五三］
7	一九二六	大正十五	十月二十一日	埼玉県鴻巣法要寺において林田光禅・五十嵐光竜による『理趣経』講伝ならびに声明法式講習が開催される（～三十日）。［智嶺三〇七・三〇八］
8	一九二八	昭和三	十月二十一日	栃木県氏家薬王寺において林田光禅を講師として『理趣経』講伝を開講する（～二十七日）。［智報一五］

9	10	11
一九三〇	一九三三	一九七八
昭和五	昭和八	昭和五十三
六月一日	九月十二日	十月十日
智積院において和田大阿闍梨のもと雲伝神道の講伝が開筵する（～三十日、七月四日～六日）。［六大一三六九・一三七三・一三七七、中外九二四一］	東京第一号支所において東京愛宕真福寺を道場に智山専門学校高井観海を講師として、金剛胎蔵両部幸心流の講伝を開筵する（～十六日）。［六大一五三三、中外一〇二〇五］ ※これは「伝授」にあたるか	川崎大師平間寺において、那須元化主を阿闍梨として曼荼羅講伝が開筵する（～十六日）。［宗報三三六・三三九］

《開講》

番号	西暦	和暦	月日	事項	講義／講伝
1	一八七八	明治十一	八月十九日	智山専門学林東校において飯島道宝が、『性霊集』を開講する。［明教六八七］	講義
2	一八八〇	明治十三	一月八日	智山専門学林西校において連存教による『理趣経純秘抄』を開講する。［明教九二〇］	講義
3	一八八〇	明治十三	二月	智山の春講釈は『弁顕密二教論』『菩提心論』であったが、生徒の要望により併せて『大乗起信論』を開講する。［明教九三四］	講義
4	一八八〇	明治十三	六月八日	智山専門学林西校において伊佐弁盈が『弁顕密二教論』を開講する。［明教九九七］	講義
5	一八八〇	明治十三	七月一日	智山専門学林東校において船岡芳勝が『大乗起信論義記』を開講する。［明教一〇〇二］	講義
6	一八八〇	明治十三	九月	智山専門学林西校において伊佐弁盈による『弁顕密二教論』が満講し、『菩提心論』が開講する。［明教一〇四七］	講義
7	一八八一	明治十四	一月八日	智積院において、連存教が『悉曇字記』を開講する。また日野栄順が声明指南、次いで『華厳五教章』を開講する。［明教一〇九九］	講義
8	一八八二	明治十五	九月二日	智山大学林において、瑜伽教如による『百法問答鈔』が開講される。［明教一三八三］	講義
9	一八八三	明治十六	四月	智山大学林において、瑜伽教如による『百法問答鈔』が開講される。［明教一四八七・一四九三］	講義
10	一八八三	明治十六	四月	智山大学林において、附属中学生のために、青木栄豊による『西谷名目』が開講する。［明教一四九三］	講義

番号	西暦	和暦	月日	事項	講義／講伝
11	一八八三	明治十六	六月二十日	智山大学林において『唯識論述記』の講義が開講される。［明教一五二八］	講義
12	一八八五	明治十八	二月二日	智山大学林において、船岡芳勝による『成唯識論述記』の講義が開講される。［明教一七八九］	講義
13	一八八六	明治十九	二月	智山大学林において金剛宥性による『華厳五教章』の講義が開講する。［明教一九五九］	講義
14	一九一二	明治四十五	二月二十一日	埼玉県南埼玉郡最勝院において、瑜伽教如元化主の指導により、声明法式の練習会が開講される（～三十日）。［智嶺一三三、中外三五九六］	講義
15	一九二四	大正十三	十月一日	私立大学智山勧学院において智山専修学院の第二期が開講される。期間は翌年三月末まで。［中外七四五八］	講義
16	一九二八	昭和三	十月二十一日	栃木県氏家薬王寺において林田光禅を講師として『理趣経』講伝を開講する（～二十七日）。［智報一五］	講伝
17	一九七〇	昭和四十五	十月六日	那須化主を招き、別院真福寺において『大日経住心品』の第一回公開講座を開講する（～九日）。第二回目は十一月九日～十二日、第三回目は十一月二十四～二十八日。［宗報二四二・二四三・二四四、六大二九六四・二九七三］	講義

※ここでの網かけ部分は「講義」「講伝」の項目と重複する部分である。

《開演》

番号	西暦	和暦	月日	事項	講義／講伝
1	一八七八	明治十一	十二月十一日	智山専門学林東校において吉堀慈恭が『秘蔵宝鑰』を開演する。［明教七五三］	講義

※「開演」はこれのみ。

註

（1）佐藤師をお招きした講演会の内容は、現代密教第二十六号（一七三―一八八頁）を、石井師については宗報二〇一五（平成二十七）年十月号（十一―十二頁）を参照のこと。

（2）五十五―七〇頁。該当箇所については六十二―六十三、六十七頁を参照のこと。

（3）貝谷師は前述の論文内で「瑜伽教如猊下は声明の伝授にあたっても講伝とされている」（六十五頁）と述べている。

（4）十五―三十一頁。該当箇所については十五―十六頁を参照のこと。

（5）該当箇所については五十五―五十九頁を参照のこと。

〈キーワード〉講義　講伝　伝授